

防災プロジェクト取組経過および個別訪問まとめ

資料 1

1、プロジェクトの目的

- ・大規模災害発生時の避難支援についての課題抽出と対策検討。
- ・地域での災害支援、地域協働、事業所の役割、団体の役割

2、具体的な取り組みとしては

(1) 平成 29 年度

- ①近年の災害発生状況と対策、課題について情報集約をする。
- ②一定の地域在住のケースについて訪問調査を実施し、地域での課題を確認する。
- ③事業所の防災計画作成推進のためモデル計画を提供する。役割を確認する。

(2) 平成 30 年度

- ①「防災に関するアンケート」作成と集約を行い。特に避難行動要支援者の支援課題、事業所の防災状況、団体の防災対策の集約を実施した。

3、構成メンバー

- ・大津市障害福祉課 ・北大津養護学校 ・バクバクの会～人工呼吸器と共に生きる～
- ・日中支援部会（さくらはうす） ・大津市社会福祉協議会
- ・ヘルプ事業所協議会（かがやき） ・放課後支援部会（フレンズ）
- ・OSK（おおつ「障害者の生活と労働」協議会） ・OSK 事務局 ・自立支援協事務局

4、各月の取り組み

1) 会議

- ・基本各月のプロジェクト会議を開催
- ・情報提供や情報を基に課題確認を実施

2) 具体的な取り組み

①・平成 29 年年度

- ・6,7 月は後述する具体的なモデルケースの検討実施
- ・8 月はモデル 2 ケースを訪問
- ・8 月訪問ケースは 9 月会議で報告し 11 月初めに本人訪問、家族聞き取りを行い 11 月会議で報告
- ・5 人目の方の訪問は、年度末年度初めにかかり平成 30 年 7 月の訪問実施となった。

②・平成 30 年度

- ・広範に障害者の防災に関する現況を把握するため「防災アンケートの実施」を計画
- ・アンケート対象を「当事者、家族」「支援事業所」「当事者団体」とした。
- ・内容を検討し 6 月から記入依頼配布、集約を行った。

5、研修等の企画実施

①大津市北部防災センター防災体験研修（平成 30 年 2 月 6 日, 8 日）

- ・両日併せて 101 人の参加があり、倒壊家屋からの救出等を体験した。

②グループホームキーパー研修（平成 30 年 10 月 17 日）

- ・グループホームキーパー、管理者 13 人が参加

5、モデルケースへの聞き取りについて

- ・大津市では手帳保持者等が多数であり、「避難行動要支援者避難プラン」(H27) 策定以降、「避難行動要支援者名簿」策定及び避難支援に関する「個別計画」策定に時間がかかっている。

福祉サービス利用時の防災対策、避難対策はもちろんであるが利用以外の時間（特に在宅時・夜間等）は事業所の支援が及びにくく地域での支援が重要である。

- ・上記から具体的なケースをモデルとしてから訪問聞き取り、モデル個別計画を策定し避難支援課題を抽出することから開始した。

(1) モデルの方への聞き取り項目

①モデル対象者（及び家庭）の状況聞き取り

- ・家族状況 ・災害発生時、不安に思われること ・避難場所や避難所の把握 ・避難所や避難支援についての要望 ・他

②地域の状況確認

- ・災害発生の可能性（居住地域の状況、土砂災害避難指定区域等、風水害等）

③自治会、自主防災組織、民生委員との関係

- ・自主防災組織や民生委員との連携 ・居住地域（自治会等）の状況

(2) 聞き取りからの確認事項

①対象 5 ケースの内 3 ケースは身体状況から日常生活に全てに、または多くの介助が必要な方で、内 2 人の方は親御さんが高齢であるなど 3 人共に家族状況や住まいの状況から家族だけでの避難行動は困難である。また、近隣住民の方との関係に差はあるが、現在のところは近隣や自治会と避難についての申し合わせが出来てはいない。

また避難所での生活についても特に 2 人の方は本人の環境の変化や音への過敏さ等から自宅避難等を希望されており避難所に避難するにしても配慮の必要がある。（当然災害発生時の自宅の状態によるが）

②5 ケースの内 1 人の方は発達障害のある子供さんで、家族の意向としては環境変化に本人の戸惑いや混乱が考えられることから家屋の耐震構造や太陽光発電設置や備蓄等、自宅避難が可能なように考えておられる。しかし、多くの家庭で同じような対応を取ることは難しいと思われる。

2) モデル個別計画の記入

①モデルケースの今後

- ・5 人の方の訪問が終了した時点で各人の状況を「個別計画」にモデル的に記入する。
- ・具体的に記入することで記入や書式に関する課題を明らかにする。

(3) 今後の取り組み

①日中支援、居宅介護、グループホーム等の防災計画

- ・各事業の策定状況を確認する。「防災計画モデル」を提示する。
- ・地域からの避難支援に関して、（グループホームも含め）検討、確認する。

②おおつ「障害者の生活と労働」協議会（OSK）と大津市の災害時事業所利用協定

- ・OSK 会員の事業所で拡充を図る
- ・会員事業所以外にも利用可能事業所を増やす

③出来るだけ多くの当事者・家族、団体、事業所にアンケートを依頼し課題を明確にする。

④救助時や避難支援、避難所生活のため「個別計画」に加え「命のバトン（災害時）」やヘルプカードの活用を検討し、提案する。

（４）個別訪問ケースのまとめ

防災プロジェクト個別ケース訪問聞き取りから（H29 年度・H30 年度）

	A さん	B さん	C さん	D さん	E さん
本人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 50 歳台女性 ・ 重症心身障害 ・ 生活行為全般介護要・体重 30Kg 弱 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 40 歳男性 ・ 幼少期の事故後障害・身体、知的障害 ・ 移動等に介護要 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学生 ・ 重症心身障害 ・ 生活行為全般介護要 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学生 ・ 発達障害 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 20 歳女性・知的、聴覚障害・自立歩行も段差は不可・会話内容理解不可・自宅以外のトイレ不可
家族	<ul style="list-style-type: none"> ・ ご両親 80 歳台 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 母と二人暮らし 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 母と妹の 3 人暮らし 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 父、母 兄弟？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 父、母、祖母
利用事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日中は生活介護（月 3～5 日） ・ 重心施設短期利用（月 10 日） ・ ヘルプ利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通所はせず日中家庭で過ごす・ヘルプ利用（ヘルプで外出を重ね外出に抵抗が減った。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援学校通学 ・ 放課後デイ利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の小学校通学 ・ 放課後デイ利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日中通所利用 ・ ヘルプ 4 事業所利用 ・ ショート利用
住居環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住居前道路から玄関に階段有 ・ 屋内家具は訪問後転倒防止を市で実施 ・ 近隣は高齢者が多く避難支援を依頼困難。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 母一人での避難は困難 ・ 非常用備蓄等あり（非常食、避難グッズ避難所排泄用目隠しテントなど） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集合住宅 1 階の居住・入口に階段、抱きかかえ要 ・ 車いすが平日は家庭にない。 ・ 自治会に加入、近所も理解があり避難支援を期待可。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所で本人が戸惑うことから自宅避難が可能なよう耐震、太陽光発電、備蓄などあり、屋外避難のためのアウトドア用品も準備されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昔からの街並み ・ 自治会加入 ・ 父は消防団加入 ・ 小さなころから障害のある子供さんのことを理解してもらっている。
避難所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難場所、避難所は把握。福祉避難所は知らない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難場所、避難所は把握。福祉避難所は知らない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難場所、避難所は把握。福祉避難所は知らない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難場所、避難所は把握。福祉避難所は知らない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難場所、避難所は把握。福祉避難所は知らない。利用の流れも知らない。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自宅からの避難時に高齢の両親では難しい。 ・ 避難所の生活は本人が音に敏感、排泄の関係で否定的。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本人は体重があり母だけでの避難は難しい。 ・ 避難所では、トイレや過ごしにスペース確保を希望。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難場所への避難、避難所への移動に支援が必要。 ・ 自宅避難不可の場合は祖父母宅避難を希望 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上記の通り避難所利用は考えておられない。自宅避難、車中避難、テント泊または祖父母宅避難を想定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本人は理解困難。聴覚障害で情報は視覚のみ ・ ネットワーク台帳、民生委員から記入依頼 ・ 避難所には入れな

			・避難所は仮設トイレは使用不可(臥位で行うため)		い(大勢の人、トイレ使用不可等)・自宅避難希望、避難所では区切られたスペース要(家族と一緒に)
--	--	--	--------------------------	--	---

3) 上記ケースからの課題

①各家庭での災害時への備え

- ・Aさん宅訪問時、家具の転倒防止がされておらず、大津市制度を紹介することでその後転倒防止が実施された。⇒日頃の防災対策をどのように誰がどのように広報するか

②避難時の支援

- ・特に重度の障害のある方の避難は、家族だけでは難しい場合が多い。パニック状態での移動困難や行方不明に注意が必要である。自主避難でも避難先や安否確認は重要である。(避難所避難とは限らず自宅避難や車中避難への支援も課題となる)
 - ・避難支援が必要な人(避難行動要支援者)に誰が(個人に限らず)避難支援に当たるかが重要である。(地域での個別情報の共有⇒ネットワーク台帳の活用)
 - ・災害発生時に救助に当たる場合、各家庭に避難行動要支援者の情報を記載したもの(例えば「命のバトン」災害時用)が常備されていれば有効。
 - ・本人が行く場に迷った場合等に「ヘルプカード」や「助けてカード」が状態を伝える助けになる。
- 理解啓発冊子

③避難場所、避難所、福祉避難所、協定事業所について

○避難場所・避難所

- ・主に地域の学校の体育館、必要な避難者に一定のスペース確保の可否
- ・体育館以外(教室や図書室等)の使用の可能性
- ・特別支援学校避難(避難所)の可能性

○福祉避難所

- ・認知度(今回は5人の家族とも福祉避難所についてはご存じなかった。)・箇所数

○事業所の地域での役割

- ・OSK 協定避難所
- ・利用者の一時避難
- ・地域防災での役割 等の確認が必要